

絵を囲む
会
2023年12月5・6日
16:00-17:00
中仙中学校

絵を囲む会
- 2023年12月5・6日 -
2023年12月5・6日
16:00-17:00
中仙中学校



みんなで

見て

話して



絵を
囲む
会

新着
募集

目で話して

もくじ

| | |
|---------------|-----|
| 複合芸術実習「絵を囲む会」 | p2 |
| 活動スケジュール | p4 |
| 開催までの道のり | p6 |
| 「絵を囲む会」1日目 | p12 |
| 「絵を囲む会」2日目 | p16 |
| 鑑賞を踏まえプチ宿題 | p20 |
| 振り返り | p22 |
| 最後に | p24 |

複合芸術実習「絵を囲む会」

カウンターパートとは

秋田公立美術大学大学院における正規授業「複合芸術実習」では、修士課程1年生を対象とする本授業が、学外の組織や個人と協働した社会実践に取り組むことを通してアートなど表現領域と地域社会のそれぞれにとり有用な文化的活動の在り方を探るものです。

一緒に取り組みをしてくださる組織や個人を「カウンターパート」と呼びます。



カウンターパート先



大仙市立中仙中学校 美術科

たなか しんじろう

田中 真二郎先生

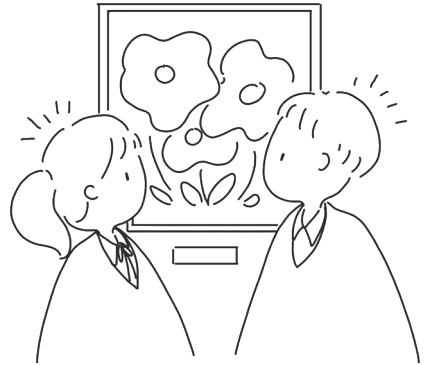
田中先生が行われる授業等に強い関心を抱き、ご協力をお願いしました。田中先生だけではなく、中仙中学校 渡邊朋哉校長や造形部員のみなさまにもご協力いただきました。

「絵を囲む会」について

鑑賞会ではありますが、作品鑑賞や対話型鑑賞など従来の呼び方ではなく、今回対象としている中学生にかしこまった堅苦しい鑑賞会ではないことを伝え、興味を持ってもらえる様「絵を囲む会」と名付けました。

実際に、中仙中学校では移動可能で自立している絵画であり、360度ぐるっと囲むことができます。立っても座っても寝転がってもどんな角度からも鑑賞することが可能です。それぞれ

見たい方法で絵を見つめ、日常会話のようにリラックスして話しながら鑑賞をする。私の絵画を通し「こんな方法もある」と新しい鑑賞を提供したいという思いもこめています。



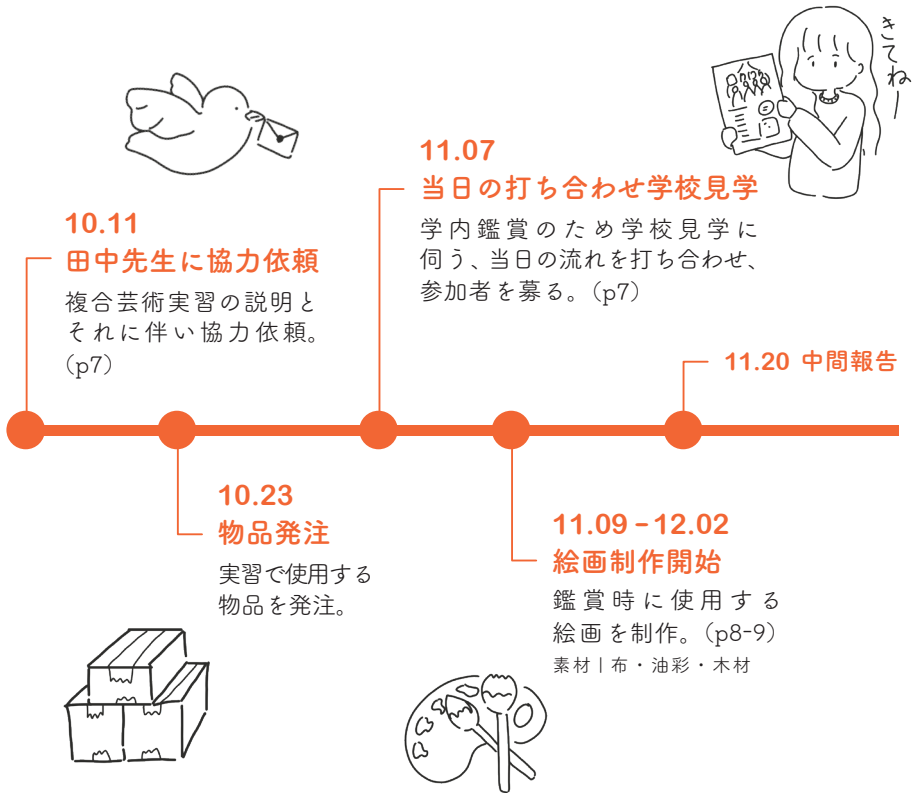
設置環境と絵画の関係

中仙中学校造形部員の皆さんには、様々な角度から鑑賞することが可能であり、各々の経験してきたことであったり見てきたことで同じ絵画でも解釈が変わってくることを他者と共有しながら体験することが目的です。

そして設置する場所によって絵画から受け取る内容も変化することも同時に体験して欲しいと考えました。周辺環境が絵画に影響を与えることがあると実際に設置場所を移動させ体感してもらいます。



活動スケジュール



♪ご協力いただいた方々♪

だいせん
Labo

大仙市企画部若者チャレンジ推進室

おやまだ こんどう
小山田さん / 近藤さん

「大仙市大学生等フィールドワークサポート事業」を活用し中学校までの交通費の援助、中学校へ同行、撮影同意書の作成、当日の記録映像撮影などをご協力をお願いしました。



11.27

関連書類作成

当日の工程表から鑑賞時記入シート、振り返り感想用紙の作成。(p10)

12.05

「絵を囲む会」1日目

「絵を囲む会」初日 (p12-15)

人数 | 7人 時間 | 16:00-17:00

12.07-

アーカイブ制作開始

冊子や様子をまとめた動画の制作。

12.04

リハーサル

美術教育センターにご協力いただきリハーサル。(p11)



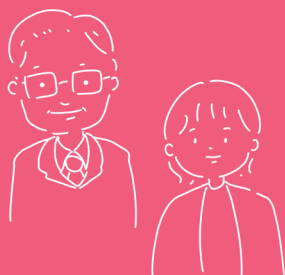
12.06

「絵を囲む会」2日目

「絵を囲む会」2日目 (p16-19)

人数 | 5人 時間 | 16:00-17:00

12.20 完了報告



秋田公立美術大学 美術教育センター

かがやとおる

加賀谷 亨 特任教授

おおぜきともこ

大関 智子 助教

実践日工程表の添削から、当日のリハーサル、教員という立場からアドバイスをいただきました。加賀谷特任教授と大関助教のほかにも美術教育センターの助手方にもご協力いただきました。

開催までの道のり

「絵を囲む会」開催にあたり、ご協力いただく田中先生をはじめ、中仙中学校渡邊校長へ学内鑑賞への依頼書の作成、撮影同意書や当日使用する用紙の制作など様々な準備がありました。

もちろん鑑賞時に使用する絵画の制作も同時並行に行ってきました。ここではそれらの詳細についてご紹介したいと思います。



10.11

授業の概要と協力依頼

田中先生にカウンターパートについて説明と、承諾を得るためコンタクトを取り始めました。

学内での開催ということもあり、渡邊校長に使用許可書を作成、電話と文面で開催の許可を申請しました。心よく使用許可をいただき、早速参加者を募るため中学校内に掲示する告知チラシの作成に取り掛かりました。チラシは気軽に参加できる印象を伝えたく、イラストで柔らかい雰囲気で作りました。

日程は相談の結果12月5日と6日の2日間での開催に決まりました。



11.07

当日の打ち合わせを兼ねて学校見学と開催を周知

どのような流れで、どのような方法で参加者を募るかなど相談と、学内鑑賞のため学校見学も兼ねて実際に中学校に訪問しました。

相談の結果、造形部の部員を対象に鑑賞を行うことに決定しました。訪問時が放課後ということもあり、その場で部員の皆さんに開催を周知し、参加者名簿へ記入をお願いしました。





11.09 – 12.02

鑑賞時に使用する絵画制作

普段は、ユボ紙にアクリルガッシュや油彩を用いて制作をしています。今回は周辺環境が絵画にどのような影響を与えるのか体験することも目的であるため、普段より影響を感じ取りやすくする工夫をしました。

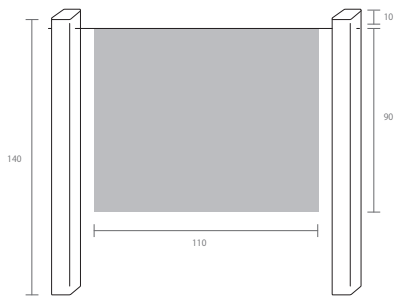
まず、支持体を布に変更しました。そして移動可能な絵画にすべく、支柱から糸を通し布を吊るし展示する方法を選択しました。

支持体には、日常生活で偶発的に不規則に変化していく情景を描いています。見たままの情景ではなく、心惹

かれた要素を抽出し描いているので、見た瞬間は何が描かれているのかわからなく、抽象的な絵画に見えるでしょう。このように描くことで、鑑賞側は幾重に受け取り解釈できるようになっています。

絵画の柔らかい温かみのある印象を壊さない様、支柱は丸角に、台は円形に加工し制作。そして、持ち運ぶ際怪我をしないようやすりをかけ手触りにもこだわりました。

そして、当日は2組に分かれ実践を行うため1組1絵画として計2つの絵画を制作しました。



11.27

当日の工程表作成

「絵を囲む会」当日の工程表を作成しました。1時間という短い時間の中でどんな時間配分で実践するのか、脳内でシュミレーションを行いながら考え何度も修正を加え作成しました。

工程表には、全体の動き・生徒の動き・私の動き・撮影協力をお願いする際の詳細・それぞれの所有時間を記載しています。

田中先生や本校美術教育センターの先生方に添削を依頼し、現実的であるか、鑑賞の所有時間などに関し相談しました。

「学内鑑賞」12月5日・6日 実践工程表

秋田公立美術大学大学院 修士課程1年 吉原小穂

| 時間 | 内容 | 主催の行動 | 客観の行動 (原文字の部分が赤い字で書かれています) | 所要時間 |
|-------|---------------------------------------|--|--|------|
| 15:30 | 学校到着。荷物をおろし、開始に向けて準備。 | | 大学の公用車から当日後う鑑賞等を搬入する。 機材のセッティング、必要資料の準備。 | 30分 |
| 16:00 | 開始 タイムスケジュールの共有と 今日何をやるか説明。 | 美術室に集まり、話を聴いてもらう。 1-2分一作品をみてもらう | 話しやすい場作りのため、輪になって鑑賞を行う。事後、写真に記録。 | 3分 |
| 16:03 | 美術室で一旦じっくり作品鑑賞をする。 | 美術室でみた内容をもとに別の鑑賞場所と比較検討。 | じっくりみてもらう | 2分 |
| 16:05 | 鑑賞開始 事前に配布した用紙(原稿)に書かれた質問内容に沿って鑑賞。 | 作品を持って字内を探索し、作品に合う場所に設置して見せる。 自身の感じ取った第一印象や、なぜその場所がいいと思ったのかを説明。 3作品ほど鑑賞を交代しながら鑑賞を継続する。 | ファンジーターを1として話を引出す。 ※その意見を書きまえてどう引き出すか深掘りするが大事。 →第一印象がたまたまか理解する。 鑑賞や鑑賞所と自分の鑑賞と比較検討してみる ※赤と写真での記録。 | 45分 |
| 16:58 | まとめ | 聞いてもらう | 今回の感想も目的を話す。 体験したことを元に関心のある課題を出し、アウトプットを私のフォードバックとして、実践の感想と共に後日提出をお願いします。(原稿紙) ※赤と写真での記録。 | 10分 |
| 17:10 | 終了。鑑賞(2311) | | | |

【原稿について】

実践では、原稿が作品に対する影響をみる、反対に作品の鑑賞に対する影響をみることも見せたいです。今回体験した内容をまね、私が実践作っているサイズでローリングを巻くつもりです。各々の作品がどの場所に設置し写真に撮影して提出していただけます。写真と一緒に、実践の感想も提出したいと思います。

これらの提出方法についてご相談下さい。

kohama1999@gmail.com に送るまたは 田中先生に経由で送ってもらう?感想・振り返りシートも田中先生経由で送ってもらう?

「絵を囲む会」記入シート 2023年12月5日・6日

Q1. 設置場所はどの空間にみならんってピンなところ?

Q2. 作品の第一印象は?

Q3. なぜそう思いましたか? (具体的に書いてみよう!)

他の人の印象を聞いてみよう! (メモを取ってもいいよ!)

使用する用紙作成

鑑賞中に使用する記入用紙の作成を同時に行いました。用紙には3つの質問が書かれています。この用紙をもとに会話を通して鑑賞します。

もう1枚は鑑賞後に記入する「振り返り・感想用紙」です。「絵を囲む会」を通して体験した感想や最後に出したプチ宿題のことについて記入する欄など計4項目の内容があります。

これらの用紙は、後日回収し再度詳しく絵画を客観視します。



12.04

当日を想定した練習

本番前日に本学美術教育センターの加賀谷特任教授や大関助教、美術教育センターの助手の方々にリハーサルの協力をお願いしました。

本番を想定し、時間を図りつつ言い回しや単語の選別などを考えて行いました。そして時間配分を再検討しスムーズに実践することができるか確認を込めてリハーサルしました。

当初の予定していた流れだと、自己紹介があり、その後2組に分かれ鑑賞を行い、最後にそれぞれの鑑賞内容を用紙をもとに共有する流れでした。

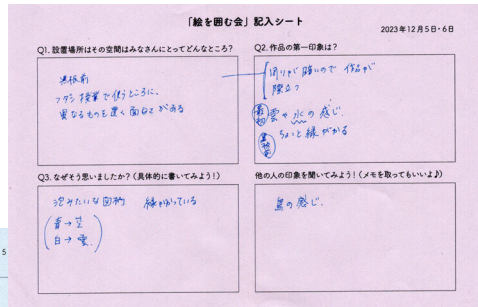
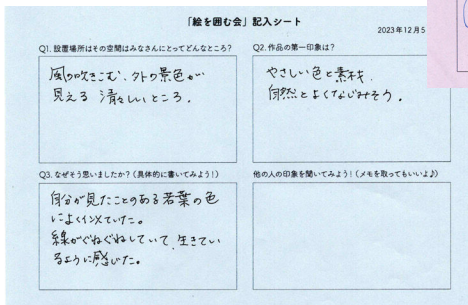
リハーサルでは当日とは違い、1つの教室内で鑑賞だったため、ファシリテーターを務める作家(私)は双方の

鑑賞場所を行き来することが簡単でした。互いの解釈を共有する際もこちらが詳細に指示を出さずとも予定通りに行うことができました。

良かった点は、互いの鑑賞内容を共有した後、設置場所を再検討し環境によって絵画の印象が変化することを体験してだけきました。

この練習では参加者が教育者であったり、美術関係者であったためこちらの説明不足などがあっても滞りなく想像通りに行うことができたのだと思います。

練習を踏まえ、先生方からいただいた助言をもとに最終調整を行い、本番に挑みました。



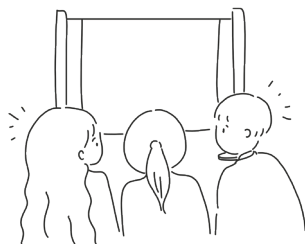
DAY 1

当日の流れ



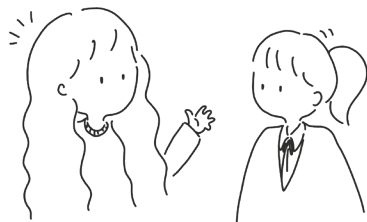
全体の流れを説明

自己紹介と全体の流れを把握してもらいます。初日は絵画が2つあるのでどちらを鑑賞したいか、多数決で決めます。



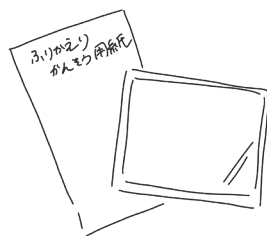
鑑賞開始

どこに設置したら良いか生徒同士で相談しながら学内を巡ります。全3箇所で見賞し、場所によって絵画の印象が変わることを体験します。



鑑賞まとめ

作品を制作し展示場所を決める、その反対も。どちらから制作しても良く、場所によって印象は変化することを最後に伝えます。



プチ宿題出題

今回鑑賞から体験したことを日常生活の中で実践し、写真におさめ後日提出してもらいます。使用する絵画は、私のドローイングです。

この角度から
見るのが
一番いい!

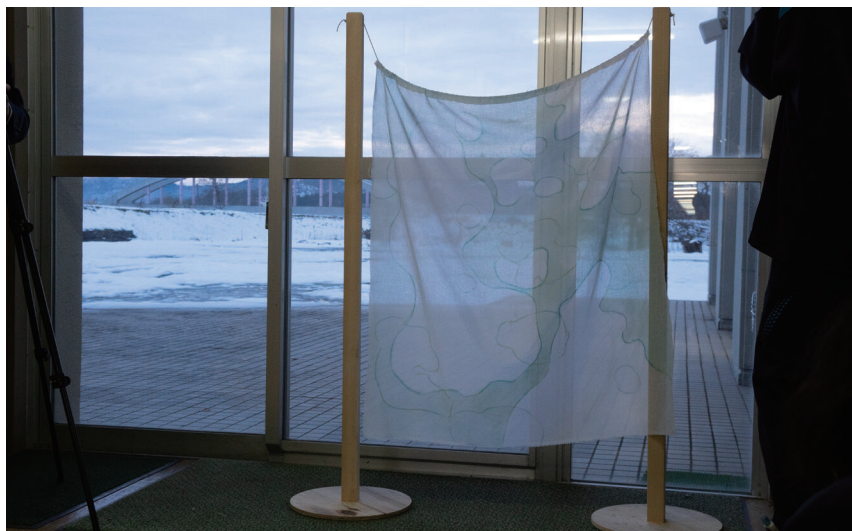
不規則的な
丸の形



優しい色使いから
自然の色に合う

儂い

懐かしさを
感じる場所



涼しい感じ

迫りたいで
水の中な感じ

開放感がある



空とか海とか
広い印象

座れば全体が
見えるから綺麗

虚しい

作品が小さい!

自然と同化してたのが
同化しなくなって
際立っている

遠くで見えにくい...
孤立感がある



小さいから孤独な
感じが増した
水よりシヤボン玉
下で練習してるバスケット部の
練習に参加してるみたいで
かわいい



薄暗いと
寂しくて怖い

イモい

白い部分が際立って
夜にみる霧みたい

暗闇の中に
あって際立つ

雪解け

影の形が面白い



囲んでいる人含めて
変な儀式みたい

背景と一体化している

お化けがでそう...



絵画の中で光と闇みたいな
2面性を感じた

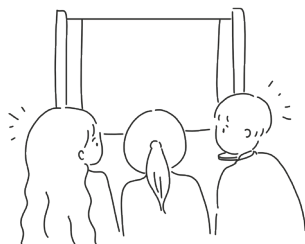
DAY2

当日の流れ



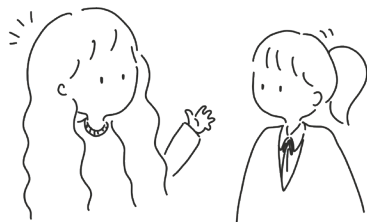
全体の流れを説明

自己紹介と全体の流れを把握してもらいます。この日鑑賞する絵画をまず教室でじっくり観察し、校内鑑賞に移ります。



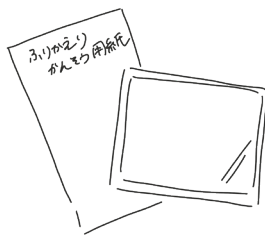
鑑賞開始

どこに設置したら良いか生徒同士で相談しながら学内を巡ります。全3箇所で見賞し、場所によって絵画の印象が変わることを体験します。



鑑賞まとめ

作品を制作し展示場所を決める、その反対も。どちらから制作をしても良く、場所によって印象は変化することを最後に伝えます。



プチ宿題出題

今回鑑賞から体験したことを日常生活の中で実践し、写真におさめ後日提出してもらいます。使用する絵画は、私のドローイングです。



ヨーロッパあたりの
地図に見える
世界地図の国旗みたい

空と一緒にみたら
空の一部に見える

空が綺麗
空に浮かぶ
雲みたい



いつもの道に
彩りが増した
毎日通る場所

場所によって色が
変わって見える

白い部分が泡みたいで、
メロンソーダに見えた



人がいることによって
アニメみたい

同じ空間とは思えない
図書館に置くことで
世界地図感が増した

歪んだりしている

白い部分が透けて
見えるから窓みたい

反対から見ると違う
世界の入り口に見える

カーテンから見てみたい

こっちからみたら
どうなっているんだろう





環境音でさらに歪んだ感覚

電気がまっすぐ並んでて
違う世界への道のように

人が映ると
絵の一部に見える

逆さまにみてみよう

動くことによって白いところに
物語があるように見える

白い部分が吹き出しみたい
ストーリーが生まれている

ヨーロッパから
インドの地図になった！



鑑賞を踏まえプチ宿題

「絵を囲む会」では、展示場所によって絵画の印象が変化すること、正面からだけではなく多方向から見られることを伝えたかったです。

この絵画にはどんな場所が合うのか考えることも重要です。今回は1時間という短い時間の中でこれらを体験してもらいました。それを踏まえ、私が普段制作しているハガキサイズのドローイングをもとに、日常生活で実践してもらおうプチ宿題を出しました。

後日写真に納め振り返り感想シートとともに提出いただきました。ここでは提出いただいた写真の一部を抜粋し紹介したいです。

Q.宿題を通して、新たに発見したことや感じたことを書いてみましょう。





人によって作品の感じ方が変わることがわかりました。また、見る角度によっても変わることがわかりました。



自分で絵を描く時に周りに情景に合うか考えてみたいです。



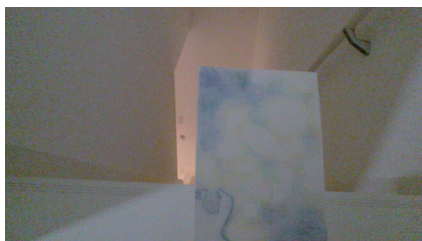
ハガキサイズの小作品を借りて、いろんな場所を探してみて作品も合わせて見ることでその場所も印象が変わったので面白かったです。



生活感をみいだした。エモさに気を使った。



見る人によって、見方、感じ方が違うということに改めて知ることができました。



その作品の良さや雰囲気をかせるような背景にすると、印象も全然違ってくると思いました。

全体の感想・振り返り

Q. 場所と作品の関係を考え設置した感想を書いてみましょう

それぞれの場所で雰囲気がぜんぜん
違っていて、印象は大事だと思いました。

設置した所によって見方が変わりました。
いろんな想像ができました。

今まで飾る場所のことを考えて、作品を設置すると
いうことがなかったのすごく新鮮に感じました。

最初以外の場所でも新しい作品のように見えた。

作品のイメージは一致していても、その人なりの言葉で表現して
いて同じ絵でも、同じ場所でも、**皆感じる感覚は全て
違っていました。**

その場所と作品の色の相性を考える
ことが大切だと思いました。

Q. 鑑賞を通して、何か印象に残った言葉や感覚などがありますか。

周りの景色を変えても人によって見方が
違うんだなということもわかりました

明かりや見る場所を変えてみたりして、水の中と違って
いたものが、**孤独やさびしさなどの感情のように
見えたりする**のがすごいと思いました。

いろんな作品でも背景の色合い、感じ方によって
印象が変わること

エモい、かっこいい

布に書かれている作品は光をあてるとまた違った
印象になりました。

印象に残った言葉は「**世界地図**」や「**他の
世界への入り口**」などです。

Q.『絵を囲む会』全体を通しての感想や意見を教えてください。

ある程度イメージは一致していても、その人の人生観や見てきたもので変わることが分かりました。

屋内と屋外で光の入り方や雰囲気ガラッと変わって面白いなと思いました。

やっぱり見るところによって、たくさんの方がちがって面白かったです。どこに設置すればいいのかを考えるのは難しかったです。

「絵を囲む会」で作品の**見方や感じ方が人によって違う**ということが改めて知ることができました。

最初は世界地図にしか見えなかった作品も逆さまから見たら、**ボコボコのインドになりました!**

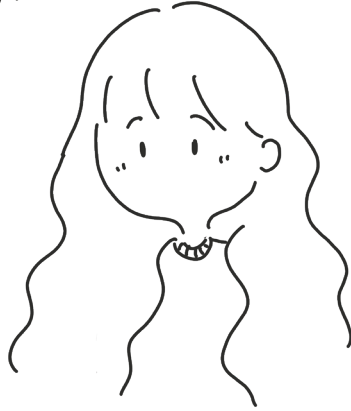
場所や景色、作品の状態が変わると、最初の美術室とは印象が変わるので面白いと思いました。作品だけではなく、**置く場所なども大切なこと**を知れたのでよかったです。

田中先生からのフィードバック

この度、本校の造形部と一緒に作品を鑑賞する機会をいただき感謝しております。日頃の部活動では、個人作品制作の他、地域の方々からの看板制作依頼、イベント等でのオリジナルグッズ制作販売など活動は多様化していますが、こうしてじっくりと作品を鑑賞して対話を重ねることはできておりませんでした。鑑賞の活動を間近で見させていただき、場所によって受ける印象や作品との関係性の変化など、明らかに子どもの中の見方・感じ方が深まったと確

信しています。美術作品は同じ芸術の音楽よりも子どもたちの生活の中に密接に関係しているものでないと感じているのですが、今回の鑑賞活動や曾根さんの作品を持ち帰り写真を撮影する課題を通して、より美術が自分をより豊かにするために存在することが分かったと思います。学校の美術教育の鑑賞活動でも、今回のように鑑賞場所を自ら選びじっくりと鑑賞することにも挑戦してみようと思います。新たな視点をいただき感謝しています。

ありがとうございました。



最後に

「絵を囲む会」を開催するにあたり、田中真二郎先生をはじめ多くの方にご協力いただきました。この場をお借りして感謝申し上げます。

既存の鑑賞法ではなく、もう少しラフで自由な鑑賞方法を提案したいと思いました。そして、設置場所と鑑賞者の人生観等によって解釈が変化することを体験してほしいと思い「絵を囲む会」を開催しました。

実際に行った結果、造形部員の皆さんに新しい鑑賞法を提案できたのではないかと思います。また、展示場所であったり、鑑賞者がこれまで経験してきた物事、その時の思考など様々な要因で幾重にも解釈と姿を変えていきます。絵画を鑑賞しているようで、実は絵画をかえして自己と対話していると考えています。これらの内容も今回を通し少しでも実感して下さっていただければ幸いです。

今回は造形部の皆さんと鑑賞を通し、作者である私自身も再度絵画を客観視することができました。そして鑑賞を通して出た解釈をもとに次回作へのヒントもえることができました。

「絵を囲む会」は変化しながら、今後も開催していきたいと思えます。次回開催する際は“あなた”もぜひ参加してください。

秋田公立美術大学 大学院
授業「複合芸術実習」完了報告書

「絵を囲む会」

| | |
|---------|--|
| 発行日 | 2024年1月10日 |
| 発行者 | 曾根 小椿 |
| 編集・デザイン | 曾根 小椿 |
| 印刷・製本 | 株式会社羽車 |
| 撮 影 | 田中 真二郎（大仙市中仙中学校） 近藤 央（だいせん Labo） 小山田 雄弥（だいせん Labo） 山岸 耕輔（秋田公立美術大学大学院助手） |
| 協 力 | 大仙市立中仙中学校 大仙市企画部若者チャレンジ推進室 秋田公立美術大学美術教育センター |

※本誌内容の無断転記、転載、複写はご遠慮ください。



ミーティング

研究の中にある
自然とテーマに
風景と森にある。

「お・は・た・して」
金鑑賞というか「お・は・た・して」
感じと「お・は・た・して」

2023年12月5日(水) 6日(木)
16:00-17:00 中仙中学校校内

今日
の楽しみは...

鑑賞作家 曾根小椿

- 注意事項
- ・撮影も可。
 - ・1日1組
 - ・1組(複数人)

経路

2023年12月5日(水)・6日(木)
16:00-17:00 中仙中学校

あしら...いれる??

絵を田の会



参加者
募集中

お・は・た・して